

## I. 学校法人愛国学園の概要

学校法人愛国学園は、教育基本法及び学校教育法に従い、校訓「親切正直」を掲げ、建学の精神に則って学校教育を行い、健全な精神と身体とをそなえた女子の育成を目的としている。この目的を達成するために設置された本学園の令和5年度における概要は、以下のとおりであります。

### 1. 建学精神

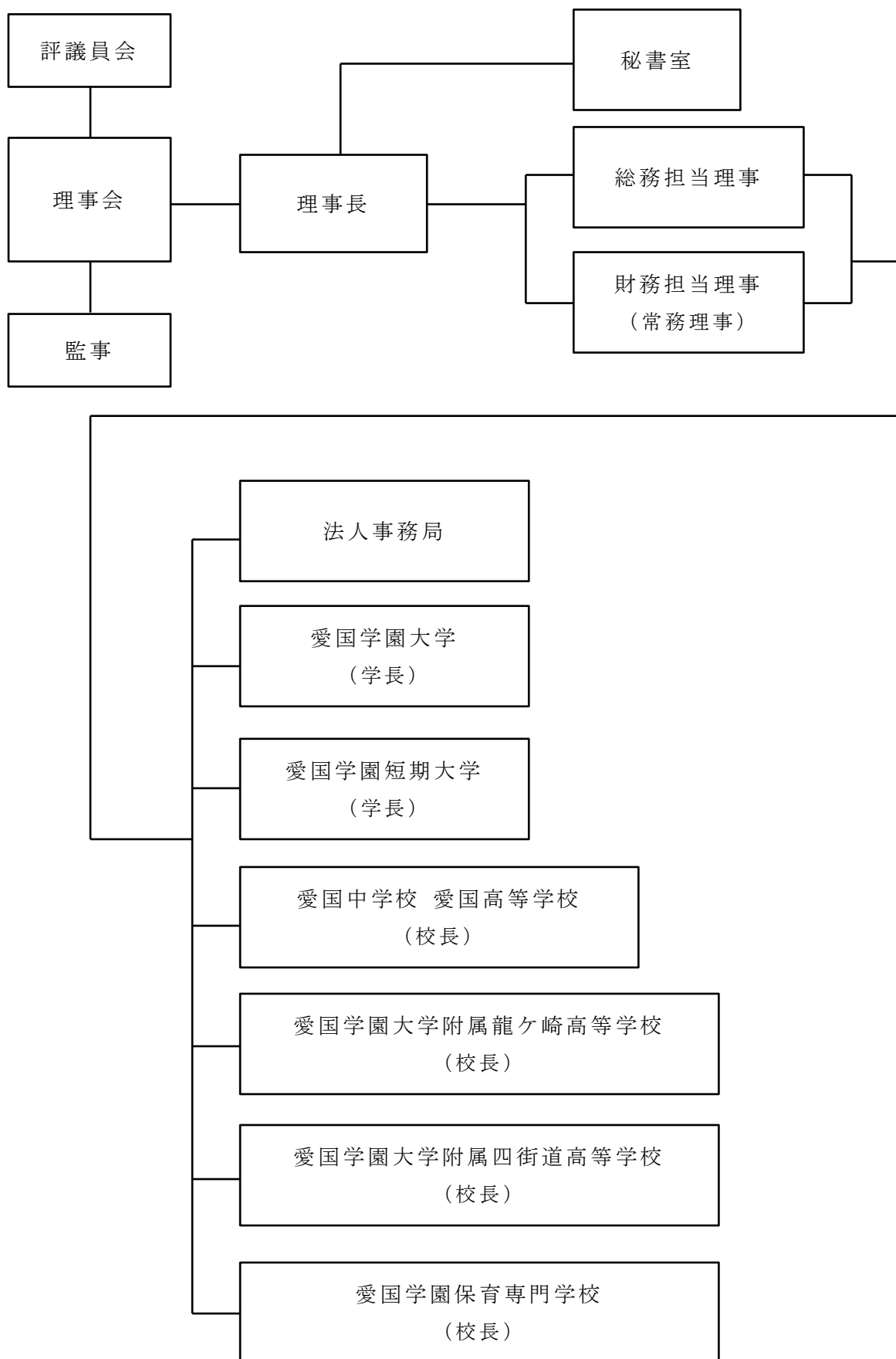
社会人としては豊かな知識と技術とをもって経済的に独立し、家庭人としては美しい情操と強い奉仕心とをもって一家幸福の源泉となる、健全な精神と身体とをそなえた女性の育成を目的とする。

### 2. 沿革

昭和13年	7月	財団法人織田教育財団創立（同年12月認可）
13年	12月	愛国女子商業学校設置
22年	4月	愛国中学校設置
23年	3月	愛国高等学校（普通科・商業科・家庭科）設置
26年	3月	財団法人を学校法人愛国学園と組織変更
37年	2月	愛国学園女子短期大学設置
40年	1月	愛国学園女子短期大学商経科増設
40年	2月	愛国学園女子短期大学附属龍ヶ崎高等学校設置
41年	4月	愛国高等学校衛生看護科設置 (准看護婦養成施設（現准看護師養成施設）指定認可)
44年	1月	愛国学園保育専門学校設置
45年	4月	愛国学園女子短期大学を愛国学園短期大学に名称変更
45年	5月	愛国高等学校定時制設置
49年	2月	愛国学園保育専門学校附属第一幼稚園設置
54年	12月	愛国学園短期大学附属四街道高等学校設置
55年	3月	愛国高等学校衛生看護専攻科設置 (看護婦養成施設（現看護師養成施設）指定認可)
57年	3月	愛国高等学校家政科調理師養成施設指定認可
63年	6月	愛国学園創立50周年記念館完成
平成9年	12月	愛国学園大学人間文化学部設置
10年	4月	愛国学園大学人間文化学部開学
11年	4月	愛国学園短期大学附属龍ヶ崎高等学校・同四街道高等学校を 愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校・同四街道高等学校に名称変更
11年	12月	愛国学園短期大学商経科廃止
13年	3月	愛国高等学校別科廃止
13年	7月	愛国学園大学附属四街道高等学校商業科廃止
14年	2月	愛国学園保育専門学校介護福祉士専攻科設置 (介護福祉士養成施設指定認可)
28年	8月	愛国高等学校定時制廃止

### 3. 組織図

(令和5年5月1日現在)



#### 4. 役員等の状況

##### ○理事・監事

理事数（定数：5～9人・現員：6人）

監事数（定数：2人・現員：2人）

令和5年5月1日現在

氏名	生年月日 (年齢)	最終学歴	主な職歴等	
(理事長) 織田 奈美	昭和35年1月6日 (63歳)	昭和女子 大学	S58. 4～現在 S60. 2～現在 H 7. 11～現在 H11. 4～H23. 3  H13. 5～現在 H23. 4～現在 H30. 1～現在 H30. 1～現在	愛国中学校・高等学校教諭 愛国学園評議員 社会福祉法人愛国学園理事 愛国中学校・高等学校 校長代理・副校長・校長代行 社会福祉法人愛国学園理事長 愛国中学校・高等学校校長 愛国学園理事 愛国学園理事長
(理事) 小玉 幸永	昭和8年3月7日 (90歳)	東京大学	S37. 4～S61. 3 S48. 5～現在 S59. 4～現在 S61. 4～H23. 3 H22. 1～H29. 3 H29. 4～現在	愛国中学校・高等学校総務部長 愛国学園短期大学教授 愛国学園理事 愛国中学校・高等学校校長 愛国学園短期大学学長 愛国学園短期大学名誉学長
(理事) 三浦 玉恵	昭和4年9月15日 (93歳)	大妻女子 大学	S46. 3～現在 S47. 4～H12. 3 S48. 4～H13. 3 S63. 9～現在 H11. 4～現在	愛国学園評議員 愛国中学校部長 愛国中学校・高等学校経理部長 愛国学園理事 愛国学園理事長代理（副理事長）
(理事) 島村 宜伸	昭和9年3月27日 (89歳)	学習院大学	S51. 12 S63. 1～H7. 8 H 7. 8～H8. 1 H 8. 3～H9. 9 H 9. 9～H10. 7 H10. 9～H16. 9 H16. 9～H17. 8 H17. 11～現在 H22. 5～R 2. 2	衆議院議員（当選9回） 愛国学園理事・評議員 文部大臣 愛国学園理事・評議員 農林水産大臣 愛国学園理事・評議員 農林水産大臣 愛国学園理事・評議員 日本プロスポーツ協会会長
(理事) 深田 烝治	昭和18年4月21日 (80歳)	東北大学	S42. 4～H14. 12 H14. 12～H17. 6 H17. 6～H20. 6 H21. 1～H21. 12 H21. 1～H22. 7 H22. 9～現在 H22. 10～現在	会計検査院審議官・事務総長等歴任 ㈱北野組特別顧問 日本電信電話㈱監査役 ㈱丸昇石材顧問 外務省無償資金協力実施適正会議委員 愛国学園理事・評議員 公会計研究協会会長
(理事) 平尾 和子	昭和32年3月31日 (66歳)	岩手大学 大学院	S56. 4～S59. 12 S60. 8～H17. 3 H 9. 4～現在 H17. 4～現在 H21. 9～H29. 3 H23. 4～現在 H29. 4～現在 H29. 9～現在	共立女子大学助手 ㈱平尾工務店 共立女子大学非常勤講師 愛国学園短期大学教授 愛国学園短期大学副学長 愛国学園評議員 愛国学園短期大学学長 愛国学園理事
(監事) 菅野 文夫	昭和18年2月8日 (80歳)	市川工業 高校	S33. 4～S38. 9 S38. 10～S46. 6 S46. 10～現在 H15. 4～現在 H17. 4～H25. 11 H25. 11～現在	㈱山本精工 ㈱協和精工 ㈱東洋ドリル設立・代表取締役 ㈱愛国学園監事 愛国学園評議員 愛国学園監事
(監事) 帆刈 信一	昭和24年3月18日 (74歳)	東京大学	S50. 4～H19. 3 H19. 4～H23. 3 H24. 5～H28. 5 H30. 6～現在	会計検査院審議官・局長等歴任 岐阜県代表監査委員 ㈱ローソン監査役 愛国学園監事

##### ○評議員

評議員数（定数：11～19人・現員：13人）

## 5. 学校・学部・学科別定員・在籍数等

令和5年5月1日現在

学校名 (所在地)	学部・学科等名	開設 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	在籍数	備考
愛国学園大学 (千葉県四街道市四街道)	人間文化学部 人間文化学科	H10	100	0	400	73	H21年度より入学・編 入学定員変更 150→100、20→0 研究生を含む
愛国学園短期大学 (東京都江戸川区西小岩)	家政科	S37	100	—	200	78	
愛国高等学校 (東京都江戸川区西小岩)	全日制課程 普通科 商業科 家政科 衛生看護科 衛生看護専攻科	S23 S23 S23 S41 S55	160 80 80 40 40	—	480 240 240 120 80	70 59 83 112 73	H29年度より 入学定員変更 普通科 300→160 商業科 168→80
愛国学園大学附属 龍ヶ崎高等学校 (茨城県龍ヶ崎市若柴町)	全日制課程 普通科	S40	120	—	360	85	H21年度より 入学定員変更 270→120
愛国学園大学附属 四街道高等学校 (千葉県四街道市四街道)	全日制課程 普通科	S55	180	—	540	105	H26年度より 入学定員変更 230→180
愛国中学校 (東京都江戸川区西小岩)		S22	80	—	240	38	H28年度より 入学定員変更 300→80
愛国学園保育専門学校 (東京都江戸川区西小岩)	幼児教育科 介護福祉士専攻科	S44 H14	50 40	—	100 40	63 —	H27年度より募集停止
愛国学園保育専門学校 附属第一幼稚園		S49	80	—	120	—	S55年度より募集停止

## 6. 教職員数

令和5年5月1日現在

学校名	教員							職員		
	本務							非常勤教員	本務職員	非常勤職員
	学(校)長	副学(校)長	教授(教諭)	准教授(助教諭)	講師	助教	助手			
愛国学園大学	1		8	8	1			10	10	1
愛国学園短期大学	1		5	3	2		3	20	9	2
愛国高等学校	1	1	43				2	28	17	2
愛国学園大学附属 龍ヶ崎高等学校	1		19					1	3	3
愛国学園大学附属 四街道高等学校	1		19					6	5	1
愛国中学校			7				1	4	2	
愛国学園 保育専門学校	1		5					17	5	

## II 事業概要

平成30年度に創立80周年の節目を迎え、令和とともに新しい一步を踏み出した本学園を取り巻く環境は必ずしも明るい状況ではない。しかし、愛国学園は、女子の教育の充実が国の発展につながるとした創立者の意志に基づき、女子のみの教育を踏襲してきている。そして、創立以来、校訓「親切正直」を戴し、建学精神である「社会人としては豊かな知識と技術とをもって経済的に独立し、家庭人としては美しい情操と強い奉仕心とをもって一家幸福の源泉となる、健全な精神と身体とをそなえた女子の育成」に即した実業教育をより充実させようと努力している。さらに、日本の伝統文化を尊重しつつ、情報化が進み国際化が進む社会情勢も鑑み、時代の要請に応える教育を実践する為、「建学精神」を尊びながら日進月歩の時代に対応できる女子の育成を図れるよう、新しい教育システムの導入等を推進すべく検討・努力している。

また、既存の愛国学園奨学金・石井愛子奨学金に加え、新たに三浦亮一奨学基金を設立し、令和元（平成31）年度より広く学生生徒を対象として奨学金を給付し、学業奨励・人格陶冶に寄与することとなった。

令和5年度においては、事業計画に則り、以下の事業を実施した。

### 【愛国学園大学】

#### 1. 基本方針

本学における教育研究の質的向上を図り、更なる発展を目指すためには、学生の確保と財政的基盤等の安定を図ることが最も大きな課題である。

このため、学生充足率の向上を目指して、令和3年度から教育体制を主専攻・副専攻体制に改編し広報に努めてきたが、令和5年度は、高校生を対象とした「愛大オープンカレッジ」を始めとして、新たな取組も行うなど積極的に大学情報を発信し、学生定員の充足に資するよう様々な活動に取り組んだ。

#### 2. 教育・研究等における重点事項

##### (1) 新教育体制への移行

学生定員の充足に向け、学生のニーズに対応する新たな体制として、「日本理解」、「心理・生活」、「地域共生」及び「ビジネス」の4専攻を置き、それぞれの専攻に所属して行う学修（主専攻）に加え他の専攻（副専攻）の学修も行うことにより、深い専門性と幅広い教養を身に付けさせる体制に改編し、3年目となった。この中では、新たな分野の授業科目の開設に加え、地域共生専攻等を中心に地域との連携によるフィールドワークを授業の中で実践する活動を行い、教育の質の向上を目指して教育指導を展開した。新たな教育体制の推進とともに授業科目の実施状況について、確認点検を令和4年度末から開始しており、令和5年度においても引き続きその作業を実施した。

##### (2) 教員スタッフに関する重点事項

令和5年度末で教員2人が定年退職すること、更には年度末での辞職者が2名あったことから、欠員の補充に関して公募を行った。その結果、32人の応募があり、教員選考委員会による審査を行い、専任教員として3人を選考し、令和6年4月1日付けでの採用手続きを行った。なお、辞職者の内1名の公募は申出の時期の関係で、今後公募することとした。

##### (3) 教育・研究の推進

- ① 学業判定に関する規程、進級に関する基準及び卒業認定に関する基準、キャップ制、その他成績に関する取扱等に基づき丁寧な指導を実施し、履修成績の厳格な5段階評価、GPAによる成績評価等を適切に行った。
- ② 外国人留学生の退学防止を図るため、常にクラス担任等と出席状況を確認し、特段の指導の必要な者については、教授会に報告して大学全体で情報の共有を図り、休みがちな学生については自宅訪問なども実施し、在籍管理の強化を図った。その結果、退学者の減少につながった。
- ③ 昨年度に続き、全学漢字実力テスト（年2回）を実施し、学生に対して、日本語（国語）の運用能力、学修全般の理解力向上の取組みを行った。日本語及び英語の授業に関しては、学生の特性に

応じた習熟度別クラス編成等により、指導の強化を図った。

- ④ 日本人学生、外国人留学生に対する就職支援の強化のため、専門家による就職相談の実施、面接の実習など各種セミナーを開催したほか、学生用就職活動マニュアルを活用した指導を行い、就職率の向上に努めた。
- ⑤ 学生が大学祭やその他の課外活動・学生企画行事等に積極的に参加して、より充実した大学生活を送れるよう指導を行った。行事等の実施に際しては、学生の自発性を尊重した指導を行うとともに、地元自治体や関係機関とも連携し、学生がその成果を発揮できる内容となるよう支援に努めた。このことにより、オープンキャンパスなど学内イベントへの学生の積極的参加・協力が得られた。
- ⑥ 教員の研究については、「人間文化研究紀要」への投稿を督促し、科学研究費助成事業等競争的資金の獲得についても奨励した。また、適正な研究活動の実施が図られるよう、必要な研究倫理について教授会等において周知した。
- ⑦ 悩みを抱える学生の支援として、外部の専門家に依頼してオンラインによるカウンセリングを行う体制を整備した。

### 3. 学生の募集活動に関する計画

学生の募集・確保を一体的に推進するための実施組織として、新たに「アドミッションセンター」を設置し、以下に掲げる取組等を行った。

- (1) 「年度別学生定員充足目標（令和2～6年度）」の目標達成に向けた取組として、大学案内の更新と志願の見込みそうな高等学校や日本語学校等への重点的配付、ホームページの更新、オープンキャンパスの開催、個別対応による特キャン（夜間開催を含む。）の開催、進学相談・施設見学の随時実施、内部校行事への参加、訪問目標学校の設定（100校）と担当者割振による確実な実施、複数回訪問、外部進学説明会への参加、受験産業による広報の実施、出願時の提出書類の改善等を行ったほか、Web出願を開始した。外国人留学生の出身国での直接選抜についても検討を行い、3月には再入学希望者についてWebによる面接選考を行った。
- (2) 高校生等への大学の認知度を向上させるため、教員全員による公開講座「愛大オープンカレッジ」（参加費無料、千葉県教育委員会、四街道市・同教育委員会の後援）を開催した（申込延26人、受講延15人）。
- (3) 令和5年度入学者の選抜から、新たに生涯学習推進への対応のための「社会人特別選抜」、国内の高等学校に在学する外国人生徒を対象とした「外国籍生徒等特別選抜」、多様な学生の入学を促進するため、「大学入学共通テスト利用選抜」を制度化し募集を行ったが、令和6年度入学者の募集においてもそれらの選抜を用意した結果、大学共通テスト利用選抜でも昨年度に続き志願者があるなど、前年度に比較して志願者が大幅に増加した。
- (4) 令和5年3月に千葉県立八千代西高等学校と高大連携事業に関する協定を締結し、高等学校教育の現状の意見交換、学長の特別講演、保護者の見学会等、相互の教育研究活動に係る連携、各種講座への高校生の受入れ等を実施する中で、本学に対する理解を深めることを推進した。
- (5) 撫子祭行事として、11月12日に部活動等で「カーレット」（卓上のカーリング）を実施している近隣の高等学校の生徒を招待して「撫子杯 2023年カーレット大会」を開催した（生徒・学生・教職員合計8チーム35人が参加）。
- (6) ウェルカムチューデント制度を11月に創設し、本学への入学予定者の出身校へのクラス担任予定者による訪問を行い、当該高等学校との連携を密にするとともに、当該生徒の状況把握に務め、入学後の学生指導に活かすこととし、学校訪問を行った。

### 4. 大学ガバナンスコードの見直し

私立大学として独自性を発揮し、社会的責任を全うするため、大学の自主的な行動規範として、令和4年11月に作成した本学版のガバナンスコードについては、社会の動向を踏まえて内容の確認を行った。

### 5. 大学機関別認証評価の受審

大学機関別認証評価については、(公財)日本高等教育評価機構による評価を受審したが、6評価基

準・23 基準項目中の 22 基準項目は基準を満たしていると評価されたが、1 基準項目（基準項目 2-1 学生の受入れ）だけが基準を満たしていないと評価され、全体の判定では、機構の定める評価基準に適合しているとは認められないとされた。

#### 6. 施設・設備の整備計画等

- (1) 施設・設備の整備については、中期整備計画を基本とし、学生の学修環境の改善といった修繕整備の優先度を勘案しながら下記のとおり実施した。
- ① 1号館ブラインドの交換、1号館学生トイレの非接触型水栓の導入等
  - ② 法令に則った1号館低濃度PCB廃棄物処理に必要な設備の改修
  - ③ 教育活動支援のための複写機の更新のためのリース契約、パソコン3台の更新等
- (2) このほか、環境美化活動として、7月28日及び11月2日に、学長以下教職員、学生の参加を得て、キャンパスクリーンデー（全学一斉清掃）を実施した。また、附属四街道高等学校の行事に参加する形で、防災訓練を実施した。

#### 7. 社会貢献の推進

- (1) 地域連携事業として、四街道市・四街道市教育委員会との共催により「市民大学講座（専門課程）」を令和5年10月14日から令和6年3月2日までの間に8講座を開講し、37名の市民が参加した（テーマ：DX時代の私たちの暮らしとビジネス）。
- (2) 地域連携及び高大連携等を一層推進し、大学の第3の機能の充実を目指して、社会貢献のための組織として社会貢献センターを新たに設置して活動を開始した。
- (3) 行政機関の政策策定等に関する審議会等に学識経験者として教員を派遣したほか、各種の四街道市の取組や関係団体にも教員を派遣した。
- (4) 撫子祭（大学祭）では、附属高等学校と連携を図り、資料展示や作品展示、音楽演奏等を実施した。また、四街道市国際交流協会、関係団体等の特別参加による展示等を行ったほか、同日開催の「四街道産業まつり」とも連携し、四街道市「食品ロス事業」での出店とパネル展示を行った。そのほか、四街道市教育委員会事業等へのボランティア参加等、学生も含めた地域貢献活動を積極的に実施した。
- (5) 大学開学25周年に当たり、地域と連携した25周年記念事業について、令和6年度にシンポジウムを開催することについて検討を進めた。
- (6) 大学施設の貸出について、教育機関等の要望も踏まえ、公益的事業等の実施のために施設の貸出を行った。

## 【愛国学園短期大学】

### 1. 基本方針

本学は、愛国学園の建学の精神と校訓「親切正直」の下に有為な女性を育成し社会に輩出することを目的として、中期計画に従い、以下の方針のもとに令和5年度の活動を進めてきた。

活動の企画・実施に当たってはこれまででも対面型授業を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことを踏まえて、マスクやソーシャルディスタンスの対応を効果的に変更した。

- (1) 学生募集活動を強化・充実し、定員充足率を改善する。
- (2) 社会の要請を踏まえつつ本学独自の特色ある教育に向けて教育内容を点検改善し、学生支援を強化する。
- (3) 将来を展望した長期にわたる学校運営の方向として「広く社会に貢献するとともに地域に必要とされる短期大学」を目指して活動を強化する。

### 2 学生募集活動並びに社会人及び留学生の受け入れ活動に関する計画

#### (1) アドミッションセンターを中心とする総合的學生募集対策の実施

アドミッションセンターは、アドミッション委員会と連携し募集活動を進めている。社会人を含む外部進学者の確保に向けて引き続き取り組んだ。高校生の進路研究及び進路決定時期の早期化の動向に対応するべく、高校1・2年生への募集・広報活動にこれまで以上に取り組んだ。また、高大連携を行うことで本学を知っていただく企画を実施し、社会人入学についても積極的に取り組んだ。

学園内選抜については、上級学校への動機づけを図るべく、学校説明会などの日程の前倒しに基づき、令和6年度入学者選抜について実施した。

#### (2) 新たな入試制度等の下でのバランスの取れた学生の募集

##### 1) 学力の3要素を問う入試の実施

学園内各高等学校のご協力を得て、学園内選抜では学力の3要素（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力等の能力、3. 主体性、多様性、協働性）を問う選抜方式により実施した。

##### 2) 大学入学共通テスト（青山学院大学と共同実施）結果を採用した一般入試の実施

大学入学共通テスト結果を採用した一般選抜を実施したが、令和5年度の受験生は無かった。今後も継続する予定である。

##### 3) WEB出願による受験生の利便性の確保

受験生の利便性を高めるため、WEB出願を全選抜方式において実施した。

##### 4) 総合型選抜（A）の利用

事前エントリー対話型による総合型選抜（A）を継続して実施しており、本試験までに互いをより理解することができ、本学の学びや目標をより理解して入学できるという効果を得ている。

#### (3) オープンキャンパス開催の方法・内容の充実

予約優先による来校型オープンキャンパス及びオンラインによる学校説明、個別相談を実施した。新たな企画として8月1日から5日まで5日間にわたって「食育フェス」とオープンキャンパスを同時開催した。本企画は（一社）全国栄養士養成施設協会から助成と後援をいただいたもので、江戸川区からも後援をいただき、地域の方々や小中学生、高校生、学生も一緒に楽しみながら学ぶイベントになった。また、8月後半及び11月4日、12月2日には、入試対策に絞った相談会を開催した。今年度立ち上げたオープンキャンパスサークルの学生がオープンキャンパスの運営に意欲的に携わった。今後もさらなる主体的な活動に期待したい。

#### (4) WEB上及び紙媒体による情報提供

学校案内及びホームページは、学びの内容、目指せる進路、サポート体制を高校生に容易に伝えられるよう大幅に改訂した。本学の認知率向上が課題であることから、ホームページの閲覧流入数を増加させるため、WEB広告の導入及び掲載内容の一層の充実を図っていくこととした。また、リアルタイムに本学の情報発信をさせるためSNSの活用を継続し、募集活動に最大限活用していくこととした。

#### (5) 高等学校訪問の強化・充実

受験生が動き出す前の時期から学校訪問を行うよう努力した。この期間に限らず、教職員や高校訪問を専門とする派遣スタッフ（半期間採用）と共に早期に動き出し、1年を通して積極的に学校訪問を行った。

#### (6) 社会人学生受け入れのための広報活動

オープンキャンパス参加者などに積極的に短大説明を実施した結果、2名の入学者を得た。

#### (7) 留学生の受け入れに向けた入試制度等の検討

新型コロナウイルス感染拡大の影響による外国人移動の問題もあり検討に至らなかった。

#### (8) 履修証明プログラムの履修者及び科目等履修学生から入学生への転換

履修証明プログラム及び科目等履修学生の受講者から、前学期の本学入学希望者はいなかった。

### 3 教育・研究等における重点事項

#### (1) 教育内容の改善及び学生対策

##### 1) 建学の精神及び校訓の浸透

建学の精神や校訓の浸透については、従来から入学式や卒業式における理事長先生の御挨拶や学長の告辞、愛国新聞への掲載、新入生ガイダンスでの挨拶、教養基礎演習の初回の授業、その他、機会あるごとに学生に伝達し、徹底させている。今年度も同様に浸透を図った。

##### 2) 教育内容のさらなる充実に向けた本学独自の特色ある教育の推進

○本学独自の特色ある教育課程の充実と教育

○学力の3要素を持たせ、卒業時に学修成果の確認を行うカリキュラムの実施

○各専攻の教育目的、教育目標を実現するためのPDCAサイクルを用いた教育の実施

○資格取得を支援するための教育の充実及び支援講座の開設

○実務家教員及び外国人教員による実務教育の推進

・生活デザイン専攻については、専攻内容の充実、様々な課題解決を組織的、構造的、合理的に行うこととしている。今年度は「介護職員初任者研修」、「医療事務技能認定試験」等の資格の取得者を多く輩出した。

・食物栄養専攻については、栄養士養成の質向上のため、厚生労働省策定の「栄養学教育モデル・コアカリキュラム」に沿った教育課程に基づいて栄養士課程を進めている。栄養士としてのレベルを高く維持するため、全国栄養士養成施設協会が主催する「栄養士実力認定試験」の受験を義務付けている。今年度の受験者の成績は、4段階に設定された成績区分のうち、最上位のA判定者が33.3%、次順位のB判定者50.0%と、ほぼ全員が成績上位区分に入る結果となった。実務経験3年間を経過した本学卒業生に対して、管理栄養士資格取得支援講座を開始した。

・実務家教員等については、従前からの外国人教師が引き続き科目を担当するなど体制を維持した。

##### 3) 学習ポートフォリオの作成と活用

学習ポートフォリオについては、入学前、1年後学期開始時、2年前学期開始時、2年後学

期開始時、卒業時に各自の目標、反省、目標の見直し等を記録させた。その結果、目標をもって学校生活や学習に取り組み、自己評価・自己管理ができるように成長させるとともに、担任が確認して就職活動に役立てるほか、社会に出た後の問題解決力を培った。

#### 4) 成績評価のルーブリック評価の導入

成績評価基準としてのルーブリックを専任教員の科目について導入し、シラバスに記載することとした。令和6年度シラバスからは全教科について実施することとした。

#### 5) 学修成果発表会及び報告書集作成

2月3日(土)に、全学生を対象とした学修成果発表会を、関係者を招いて実施した。保証人等学生関係者、学園関係者(理事長先生、副校長先生他)の他、受験生等の参加をいただいた。参加した学生たちは達成感を得ることができた。「商品開発・企画演習」と「調理学実習Ⅱ」の報告書集を作成し図書館に配置した。

#### 6) 学生生活の活性化に資する支援活動

##### ○学生主体のなでしこ祭の企画・実施やサークル活動への支援

学生の組織である学友会を教員が支援する形で自主的に活動している。学友会の主体的な活動により、学内の活性化を図ることができる。今年度は9月9日(土)に愛国高等学校のなでしこ祭と同時に開催した。本学では「不思議の国」をテーマに、学友会が中心となって学生主体で企画した。さらに地域との交流エリアを設け、共同出店を行った。

また、高等学校のなでしこ祭開催日(9月9日、10日)に短大サテライト会場を設け、多くの来場者を得て本学の魅力をお伝えすることができた。

##### ○学業等優秀者への三浦亮一奨学基金による奨学金の授与

三浦亮一奨学基金より、入学者26名及び学業成績が優秀な1年次・2年次の学生各1名に対して奨学金が授与された。

その他、国等による「修学支援のための授業料等減免及び給付型奨学金」については、延べ8名の学生が支援を受けた。勉学に取り組む学生の励みと修学の継続に資し、学生募集上も有益であった。

#### 7) 退学・休学防止のための学長面談の実施、メンタル心理カウンセラーによる積極的な声掛け・相談などきめ細かい学生対策の実施

学生生活全般にわたる支援を行うクラス担任制、学生相談室に非常勤の臨床心理士を配置し、カウンセラーの資格を有した教職員が問題を抱える学生の日常的な相談に対応できる体制を整えてきた。また、オフィスアワーを設けて支援を強化し、学長面談も年2回行うなどの学生支援の体制を維持している。心身に困難な事情を抱える学生の割合が上がりつつある実情もあり、さらなる取組を行う。

#### 8) 障がい学生に対する合理的配慮

障がい学生の修学のための必要かつ適切な合理的配慮を行い継続的な支援ができるよう基本方針を定めて障がい学生を支援する体制を整えた。

#### 9) キャリア支援室による就職希望者、進学・編入学希望者増加に向けた支援対策

授業形式での全体指導(キャリア形成Ⅰ、Ⅱ)及び、キャリア支援室による学生個々の状況に応じた個別対応の二段構えで指導を実施した。全国的に企業の採用は回復傾向になってきており、本学は就職希望者の内定率は年度末現在で100%を達成した。大学編入者が2名あり、十分に支援することができた。また、令和3年度から開始した保証人向け就職セミナーを実施し、セミ

ナー後に希望の保証人に対し担任面談を行い、学生の就職に対するサポートを行った。

(2) 高大の接続に向けた連携教育等

学園内各高等学校との接続に向けて、今後も各高等学校の校長先生と相談をしながら進めさせていただいた。次年度も積極的に行う予定である。

1) 人材を生かした教員の相互派遣による教育の実施

2) 学園内高校生の協力による教育・研究活動の実施

愛国高等学校において本学教員及び学生の協力による授業を実施した。

3) 各高等学校における本学広報掲示物、学校説明会、出前授業の展開

愛国高等学校、龍ヶ崎高等学校、四街道高等学校において実施した。また、2年生に対する学校説明会を行った。

4) 高校生への模擬授業の提供

愛国高等学校の生徒(希望者)に対するパン教室を実施した。

5) 科目等履修生制度等を利用した高大接続授業の検討

高大接続授業については、愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校と実施し、令和6年度も行う予定である。愛国学園大学附属四街道高等学校の1、2年生には、オンライン形式による栄養指導を行った。

(3) 人的資源を生かした「広く社会に貢献する短期大学・地域に必要とされる短期大学」作りに向けた取り組み

本学では、地域への貢献とともに学生自身の成長を促すために、長年ボランティアセンターが支援し、地域ボランティア活動に取り組んでいる。学外活動は新型コロナウイルス感染症対策の効果的な変更の元で、次のような活動を実施している。

1) 地方自治体、企業、各種団体などの学外機関との連携(産学官連携)に基づく活動を行い、活動を通じて学生の応用力、実践力の向上強化

○地方自治体との連携に基づく公共行事への参加・協力

○地方自治体や各種団体との連携に基づく課題解決に向けた取り組みの推進

○企業との連携に基づく商品の企画・開発、研究活動の推進

①買取サイト「ブランディア」と行う古着廃棄ゼロプロジェクトに、令和2年より生活デザイン専攻学生と被服系教員とで取り組んでいる。廃棄衣類を材料に手工芸技術によって新たな服飾品へアップサイクルする活動である。今後も本学及び同社ウェブサイト等で活動を発信していく予定である。12月23日ハギユットフェスのSDGs タッセルチャーム作りも本プロジェクトによるものである、

②(株)ニッポンのホームページ栄養情報サイトに、本学学生及び教職員が企画した、同社商品にちょっとした工夫で栄養バランスをよくするアイデアレシピが紹介されている。

③カルビー(株)の「時間栄養学による製品を用いた健康効果の検証」を共同研究することとし、臨床試験に本学教職員及び学生による協力を行った結果、研究成果が学会における優秀ポスター賞を受賞するなどの成果を上げている。

2) 地域の方々への生涯学習機会の提供

○新たな公開講座・公開講演会の検討・実施

例年多くの参加者を得ているが、新たな講座を企画して、充実を図った。

○履修証明プログラムに係るカリキュラムの充実・実施

近年実績があがっていないため、受講開始を前学期及び後学期から開始できるようにしたり、単位認定を認めるようにしたりするなど多くの方に学んでいただけるように取り組んだ。

### 3) 地域ボランティア活動への積極的取り組み

- ①江戸川区と協力して子育て支援事業を進める「ハギユット協会」からの依頼により、隔月1回、地域情報誌である「ハギユットタイムズ」に「教えて！愛国学園短期大学！！」というテーマで生活に役立つ情報を動画配信している。
- ②アリオ葛西からの依頼により、「愛国学園短期大学×アリオ葛西健康フェス」が10月7日行われ、本学食物栄養専攻2年生が（株）タニタの体組成計を用いた測定結果を元に栄養指導として解説やアドバイスをした。また、本学教員による健康講座を行った。
- ③食物栄養専攻2年生考案「食べきりレシピカード」が11月に完成し、江戸川区ホームページに掲載された。「クックパッド」の「消費者庁のキッチン」ページにも掲載予定である。短期大学と区が共同で行う学生が講師の料理教室「江戸川区×コラボDE料理教室」を10月28日に開催し、併せて区によるSDGs等の講演が行われ、児童・生徒、保護者に多数の参加があった。
- ④江戸川区公園指定管理者等の共催による多文化共生、地域力発信を目的として12月10日に開催された「えどイン・フェス‘23」に本学ブースを出展し、本学作製のメレンゲクッキー、学生デザインのマスキングテープを販売した。
- ⑤ハギユット協会主催、江戸川区後援の「江戸川区を感じて学ぶ子育ての祭典第9回ハギユットフェス」が12月23日江戸川区民センターグリーンパレスで開催され、本学は「SDGsタッセルチャーム作り」をテーマに参加し、多数の来場者を得た。
- ⑥江戸川区産業経済課及びハギユット協会が運営する「第10回小松菜まつり」（令和6年1月20日会場アリオ葛西）に参加し、江戸川区産小松菜を使用した「小松菜ふりかけご飯」を区民に提供した。

### (4) 充実した学生の教育指導・生活指導及び教職員の能力開発

(Faculty Development (FD)、Staff Development (SD)) 等

- 1) 学内組織体制により学校運営を効率的・効果的に進め、学生の教育指導・生活指導を実施  
学生募集活動を一体的かつ効率的に進めるために、学生募集、入試対策、事務局学務課学生募集担当などの機能を一体化した「アドミッションセンター」のほか、課題検討委員会により学校運営を進めた。
- 2) 教員の能力開発 (FD)・職員の能力開発 (SD) を目的とした研修の企画・実施
  - FD (Faculty Development)
    - ・第1回令和5年8月8日(火)「令和6年度の認証評価に向けて」(SDと同時開催)
    - ・第2回令和6年2月20日(火)「非常勤講師との連絡会」(令和6年度の変更点)(SDと同時開催)
  - SD (Staff Development)
    - ・第1回令和5年8月8日(火)「令和6年度の認証評価に向けて」(FDと同時開催)
    - ・第2回令和6年2月20日(火)「非常勤講師との連絡会」(令和6年度の変更点)(FDと同時開催)
- 3) FDとSDの共同実施  
本学では、教職協働を進めておりその一環としてFDとSDの同時開催を行っている。

(5) 科学技術研究費補助金等の外部資金の獲得によるさらなる研究活動の活性化

専任教員1名が科学技術研究費補助金を得て活用した。その他に専任教員2名が企業等からの研究資金を獲得して研究を実施している。

4 施設・設備の整備計画

(1) 教育内容を高めるための実験・実習用機器・用品の整備

今年度は重要な物品の調達、更新はなかった。

(2) 研究活動を高めるための機器・設備の整備

教育用の設備等の整備を優先しているが、研究活動は最新の知識・技術を学生に還元できる重要なもののため、研究設備整備に努力したいが、学生数が増加してから着手することとしている。

5 その他

特になし

## 【愛国学園保育専門学校】

### 1. 教育・研究における重点事項

#### (1) 幼児教育科

- ① 4年度入学生 29 人のうち退学者等 8 名を除いた 21 人が卒業した。
- ② 1、2 年生ともに引き続き本学カリキュラムの実現に向け、各教科の目標を具体化しこれからの保育を担う保育者の資質、能力の向上を図る。
- ③ 的確かつ柔軟な実践力を備えた、保育ニーズに対応できる人間性豊かな保育士、幼稚園教諭を育成する。

#### (2) 介護福祉士専攻科

募集停止中

#### (3) 学会発表

第 76 回 保育学会発表

「運動遊びを通して子どもにめばえる道徳性について」 ほか 3 名

### 2. 学生の募集活動について

#### (1) 幼児教育科

- ① 学生募集に当たり、オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症対策を行って 13 回実施し、首都圏保育専門学校フェアも、同様に感染対策を行って 4 回実施した。また、学校訪問は、新年度開始後（4 月末）より実施し、オープンキャンパス参加校や本学受験希望の学生やパンフレット請求のあった所には、1 回だけの訪問で終わらせず同じ教員が再度訪問し積極的に本学の PR を実施した。さらに、広告会社主催のガイダンスに参加するなどして、学校の周知及び学生募集の実施を図った。
- ② 地域を対象とした子育て支援講座も 3 回開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症に鑑みて中止した。

#### (2) 介護福祉士専攻科

27 年度から一時募集停止

### 3. その他

- (1) 学生の親睦を深めるとともに安全・危機管理に関する体験学習に参加することで、保育者を目指す者として必要な知識の向上を図り、今後の学習や実習への意欲を高めるため、6 月に日帰りの校外学習として、すみだ水族館及び本所防災館（墨田区）の見学及び体験を実施した。
- (2) 講師会議は、3 月に対面の会議で実施した。

## 【愛国中学校・愛国高等学校】

### 1. 教育・研究における重点事項

女子教育の伝統を堅持しつつ、崇高な建学の精神に基づく「親切正直」の教育理念を誇りとし、知育・徳育・体育の教育体制の更なる充実に努め、少人数による学級編成、習熟度別の授業、チームティーチング、アクティブラーニング、補習・講習などを適宜行い、基礎学力の向上に努めるのはもとより、成績上位者の学力アップも極力図った。新型コロナウイルス感染症については昨年5月政府より、法令上季節性インフルエンザと同等の5類相当とし、マスク着用の緩和、何らの行動制限もせずとの見解が示された。よって本校もマスク着用は任意（一部衛生看護科、家政科の実習科目は例外）としたが、尚も生徒・教職員の安全に配慮しつつ、万全を期して全ての学校行事を遂行した。本学園併設上級学校との連携等も積極的に行い、時期を早めての内部進路指導説明会の実施は結果的に功を奏した。また生徒一人一人が目標を定めた充実した学習・学校生活を行えるよう促した。さらに、校訓を実践する場として定期考査を通常通り「無監督試験」で行い、知育を支えるその根本には本校らしい徳育があることを生徒たちに認識させている。この制度は70年以上継続している。

専門学科における准看護師、調理師を始め、各種資格（英検、漢検、硬筆書写、簿記、情報処理等）取得を奨励した。衛生看護科の臨地実習も、平常通り実施することができた。愛国中学校においては、特にキャリア教育、及び中高一貫教育の充実の一つとして各種検定試験へのチャレンジを推奨、上記資格に加えビジネス能力検定に挑戦するなど、一定の成果を上げた。また本年度より生徒個人にタブレットを持たせ、ICT教育の充実に努めた。

### 2. 生徒募集活動

- (1) 学校説明会や学校訪問を複数回実施するほか、外部の説明会にも積極的に参加し愛国学園の建学精神を理解してもらうように努めた。
- (2) 今年度の中学入試は極めて厳しい結果になり、生徒募集担当者の一人として反省しているところである。特に江戸川区内からの入学者はおらず、その原因精査を遂行中である。ただ、その一つとして考えられるのは、生徒募集担当者の塾訪問の減少にある。来年は塾への積極的な広報活動を期して、今年度の三倍の訪問数を貫徹すべく計画をしている。然し、塾はどうしても夕方からの訪問になる為、現在の本校教職員では限界があり、より効率の良い塾訪問を図るため、一昨年実施した業者委託による塾訪問を、再度内容を充実して実施する予定である。
- (3) 令和元年度よりweb出願制度を導入し、今年度まで同様の制度で実施した。この制度は既に小中学生の間で大分浸透してきており、大変スムーズに運用され、受験希望者の利便性を高めるのに大いに役立った。また同じシステムを使用し、学園説明会の予約受付をすることで参加者の把握・分析に効果があった。
- (4) 学園の上級学校への進学をより充実・容易にするため、大学・短期大学・保育専門学校において模擬授業を実施するなどして、生徒が上級学校へ進学できる環境整備に努めている。
- (5) 数年前にホームページをリニューアルし、内容の一層の充実を図り、愛国学園に対する理解度を高めるよう努めている。これは一般受験視聴者に好評であった。

### 3. 施設設備の増改築等

一般教室等の空調機器の改修工事や高原寮東棟の外部補修工事などを行った。

#### 4. その他

- (1) 本年度は、第2学期に奥の細道をたどる東北修学旅行を実施し特に問題なく終了した。また、第3学期末には中学3年生の関西修学旅行、高校3年生の関西北陸修学旅行等いずれも予定通りの行程で実施し、事故、病人などもなく、成功裡の内に終了した。
- (2) 約3週間のホームステイを主としたアメリカ海外研修(シアトル)は諸事情により本年度も中止とした。
- (3) 軽井沢高原寮における高原生活及び、一宮臨海寮での臨海生活による集団生活の体験学習及び中高一宿泊オリエンテーション等は、久しぶりということもあり、事前の準備など万全を期して実施した。  
結果として、特に何の問題もなく終了した。
- (4) 衛生看護科の臨地実習は一部学内実習も含め、概ね全ての病院に於いて実施された。家政科の特別講習の実施及び、かっぱ橋道具街見学なども復活実施した。
- (5) 生徒銀行業務による商業科3年生の実践力向上と貯蓄教育の推進を図った。
- (6) 高三普通科のフィールドワークとして、芭蕉庵跡等を見学する深川文学散歩は、本年度は送迎バスを利用し復活実施した。奥の細道の研究の集大成として大いなる成果を上げた。
- (7) 生徒銀行祭は通常通り開催し、文化祭(なでしこ祭)も通常形態で実施し大いに賑わった。これに関連し特に健康上の問題は発生しなかった。
- (8) 11月3日に行われる本校の伝統ある創立記念祭は式典・体育祭とも来賓招待者も含め、通常通りのスケジュールで実施し生徒は大いに躍動し楽しんだ。特に招待校リレーの復活は大いに盛り上がった。
- (9) 中全のスキー教室、中学・高一の遠足及び高三のテーブルマナーも予定通り実施した。

## 【愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校】

### 1. 基本方針

社会人としては豊かな知識と技術とをもって経済的に独立し、家庭人としては美しい情操と強い奉仕心とをもって一家幸福の源泉となる、健全な精神と身体とを備えた女子の育成を目的にするという建学精神を具現化するため、校訓の「親切正直」の下で地域に根ざした女子教育を推進する。

普通科教育の中で、建学精神に基づいた女子教育を推進するために、類型としてコース制を設置し、系列の愛国学園大学、同短期大学及び同保育専門学校との連携を図り、豊かな人間性と幅広い視野をもった生徒を育成する。生徒の適性や特性を生かし、すべての生徒が適切な進路実現を目指せるコース制教育を推進する。

### 2. 教育・研究等における重点事項について

#### (1) 共通履修カリキュラム及び教育内容の重点項目について

##### ア. 学校設定科目の設置

(ア) 国語に「奥の細道」を設定し松尾芭蕉を研究

東北旅行を実施し、芭蕉の追体験を想起させ、心情を理解させた。

(イ) 家庭に「被服」を設定し和洋裁技術を習得

採寸裁断等の基本的技術を身につけさせながら全て手縫いで浴衣を作った。

##### イ. 建学精神に基づいた教科（商業）の増単位

「簿記」を1単位増の4単位による会計経理の基礎知識の習得

基礎知識の定着を図るとともに検定試験の上級合格者を増加させた。

##### ウ. 個に応じた授業の充実

国英数の授業における習熟度別授業の実施

2クラス3展開、または1クラス2展開で、基礎基本を徹底させた。

##### エ. 建学精神に基づいた道德教育及び貯蓄教育

(ア) 独自教材（道しるべ）等を用いた道德教育

学園の創設者の思いや理念を理解させながら、自身の生き方を考えさせた。

また、外部指導者による礼法指導（華道・茶道）を各学年2回実施した。

(イ) 校訓「親切正直」実践を目的とした無監督による定期試験の実施

定期試験において無監督試験を実施し、校訓を実践できた。

(ウ) 貯蓄教育のための生徒銀行の推進

週2～3回生徒銀行を開き、貯蓄を奨励した。

#### (2) コース制カリキュラム及び教育内容の重点項目について

##### ア. 保育福祉コース

(ア) 将来保育士、介護福祉士を目指す教育内容の重視

保育福祉コースの11名が保育系専門学校に進学し、1名が介護福祉系の専門学校に進学した。

(イ) 保育・介護体験実習

外部での保育・介護体験実習は実施できなかった。

(ウ) 保育技術検定の対策講座の実施

10月～11月に対策講座を12回実施し、検定試験を計4回実施した。

- はじめて2級に合格した。
- (エ) 介護職員初任者研修講座の実施  
保育福祉コースの全員が修了書を取得した。
- イ. 進学教養コース
- (ア) 看護・栄養系及び語学・社会科学系進学を目指す教育内容の重視  
社会科学系の大学に1名進学し、2名が家政系の短大に進学した。
- (イ) 国語・英語における進路別授業の実施  
授業内で上級学校入試や検定試験を意識した小テスト等を実施した。
- (ウ) 教養と発信力を養成するための特別講座の実施  
大学の先生による探究の特別講座を実施し、研究発表会を行った。
- (エ) 進路別対策講座の実施  
希望者を対象に進路学習相談や個別添削指導等を行った。
- ウ. 共通教育内容
- (ア) 大学等進路希望別対策講座の実施  
模擬試験の事前対策指導や放課後希望者に対して課外授業を実施した。
- (イ) 英語・漢字検定及びPC検定・簿記検定等の対策講座  
英検準2級，漢検準2級，全商簿記2級に複数名合格した。
- (ウ) キャリア教育に基づいた計画的な進路指導の実施  
「総合」の授業を中心に進路指導部主導のキャリア教育を行った。
- (3) 愛国学園系列上級学校との連携協力における重点事項について
- ア. 効果的な出前授業の実施  
上級学校の先生と連携して効果的な出前授業を実施した。
- イ. 上級学校における体験授業及び体験実習の実施  
オープンキャンパスを随時紹介し、その参加を強く勧めた。
- ウ. 系列上級学校進学を見据えた計画的な進路指導の実施  
1年次から積極的に学校紹介をするとともに希望調査等を行いながら、個別面談を実施した。
- エ. 系列上級学校進学率の向上  
短期大学2名、保育専門学校4名が進学した。進学率は18%だった。
- (4) 生徒の満足度を上げるための重点事項について
- ア. 創意工夫を活かした授業の推進  
管理職による授業観察(6月)、保護者対象の公開授業(11月の1週間)を実施した。生徒による授業評価を行った。
- イ. 習熟度に応じた学びの充実  
英数国の科目において習熟度別授業を展開した。
- ウ. 希望進路に応じた進路指導の実施  
卒業後を見据えたコース制の教育内容の充実を図った。
- エ. 愛校心を育てる学校行事の実施  
ほぼコロナ禍前の学校行事が実施できた。
- オ. カウンセリングマインドによる生徒面談の実施  
クラス担任との生徒面談(3回以上)や保護者面談(2回)を実施した。

カ. 自己肯定感を育む教育活動の充実

自己表現の場や体験的な学習の場を増やすとともに校外活動などに積極的に参加を促した。

キ. 校外での職業体験を含むボランティア活動の推進

ジュニア技能インターンシップ事業や龍ヶ崎市社会福祉協議会主催の「高校生ボランティアスクール」などに参加した。

ク. 部活動の活性化

サッカー部、バドミントン部、弓道部、吹奏楽部、書道部が、各種大会に参加した。地域のイベントに、ダンス部、軽音楽部が積極的に参加した。

ケ. カウンセラーによる教育相談の充実

週1回のスクールカウンセラーによる生徒・保護者の希望面談や全生徒面談を実施するとともに、支援を必要とする生徒に関するサポート会議を複数回実施した。

コ. 保護者会（母師会）との連携協力

コロナ禍前の活動はできていないが、徐々に再開した行事もあった。

(5) ICT 教育推進のための重点事項について

ア. 学習指導における ICT の活用

全教員が ICT 活用の公開授業を行った。

イ. ICT 活用指導力等の向上

指導力向上のための研修会を複数回実施した。

ウ. 校務における ICT の活用

成績処理及びデータ管理を促進した。

エ. 情報モラル教育の推進

専門家による研究会を実施した。

オ. 教育情報セキュリティポリシーガイドラインの策定

策定には至らなかった。

(6) 組織力向上のための重点項目について

ア. 目指す学校像の共有化

職員会議において改善点等を明確にした取り組み内容の共有化を図るとともに、学年主任会を毎月実施し、目指す学校像の実現化を図った。

イ. より良い学校づくりのための教職員の意識向上及び資質能力の向上

教員研修及び管理職と教職員との個別面談を複数回実施した。

ウ. 生徒・保護者による学校評価を活かした教育活動の改善

学校評価（生徒・保護者・第三者・自己評価）を行い、教員一人一人の課題意識の向上を図った。

エ. 第三者評価委員会による評価を活かした教育活動の改善

第三者評価委員（教育関係者及び有識者等）5名に対して、本校の教育活動の取り組み等を説明し、学校評価結果の分析を示すとともに、本校に対する評価・助言等をいただき、評価結果等を HP で公表した。

3. 学生・生徒の募集活動に関する計画について

(1) 専願推薦志望者を増やす募集活動の強化

特待推薦者が4年ぶりに1名あった。

- (2) 推薦入試基準及び一般入試基準の見直し  
推薦希望者が若干名増えた。
- (3) 中学校訪問方法の抜本的な改善  
県内中学校における事前相談がほぼ実施できなかった。
- (4) ネット出願の環境整備  
ネット出願はほぼ整った。
- (5) 学校説明会（入試説明会等）の改善  
参加者増にはならなかった。
- (6) 学校 HP の充実  
ほぼリニューアルが完成した。
- (7) 龍ヶ崎市及び近隣地域との連携強化  
龍ヶ崎市と市内4高校との連携協力に関する包括連携協定を締結した。

#### 4. 施設・設備の増改築等計画について

- (1) ICT 教育環境の整備  
特に整備したものはなかった。
- (2) 弓道場（的場）の整備  
特に整備は行わなかった。
- (3) 敷地内の樹木等の管理  
必要に応じて樹木の伐採等を行った。強風により、管理棟横の杉の木が倒木したため、伐採した（3月18日）。

#### 5. その他

旧校舎跡地の利活用について

ア. 一部を耕作地にする

特に行わなかった。

イ. 野菜栽培を総合学習の授業の一環として行う

特に行わなかった。

ウ. 収穫した野菜等で食育教育を行う

特に行わなかった。

## 【愛国学園大学附属四街道高等学校】

### 1. 基本方針

愛国学園の教育理念である建学精神の浸透と、校訓「親切正直」を教育活動の基盤として、確固たる信念に基づく女子教育の下、社会に役立つ人間形成をあらゆる教育活動を通して育成するため、教育内容の一層の充実と生徒募集の活性化を図った。

#### (1) 愛国学園の教育理念の下、時代の要請に応える教育の充実

愛国学園の教育理念である建学精神の浸透と、校訓「親切正直」に基づき、生徒一人ひとりの進路希望を叶えることのできる教育活動の充実を図った。

また、グローバル社会において活躍するために必要な、豊かな知識と技術の習得並びに健全な精神と身体の育成ができる教育活動を推進した。

#### (2) 特色ある女子教育の充実

女子高である特色を十分に活かし、愛国学園が大切にしてきた教育活動（親切正直）を実施することで学校生活の充実を図るとともに、本校入学を希望する生徒の増加を図った。

3年間を通した情操教育の充実を図るため、豊かな自然環境を活用したボランティア活動や本学園伝統のマナー指導をより充実させる計画を作成し、女性ならではの豊かな心や思いやりの心を醸成した。

#### (3) 愛国学園が持つ教育力を活かした教育活動による生徒募集の充実

令和4年度入学生（2年生）が保育コース・総合コースに分かれ、それぞれに特色ある教育課程により学習を行った。各コースの特性を活かし、本学園が持つ教育資源である上級関連学校との連携をさらに図り、上級学校の講師による特別講義などを行い、各コースの特色ある学習活動を実施した。

宿泊研修（一の宮、軽井沢）では、龍ヶ崎高校生徒との交流もあり、多くの活動を通してコミュニケーション能力や課題解決能力などの総合人間力アップが図れた。

#### (4) 部活動の充実

千葉ジェッツによるバスケットボールクリニック、四街道市内中学校ソフトテニス部員へのソフトテニス指導等他校との合同練習をきっかけにして、中学校等への部活動の勧誘活動を実施し、部活動、学校生活全体の活性化を図った。

また、部活動特待入学制度では、ソフトテニス部での活動を希望する者が入学し、今後の活躍が期待される。

学校説明会では学友会と連携し、生徒が行う活動報告を実施し、生徒募集に繋げた。

#### (5) 地域との連携による教育の充実

保育コースでは近隣保育園等との連携による体験学習等を実施した。また、四街道市立図書館から講師をお招きし、読み聞かせ講座を受講し修了証を受領した。

バスケットボールでの千葉ジェッツとの連携による四街道市内を中心とした小中学生へのクリニックに加え、本校職員が近隣中学校を対象に技術クリニックを実施した。

### 2. 教育・研究等における重点事項

#### (1) 新教育課程の学年進行による、より魅力ある教育活動の実践

ア. 総合・保育各コースの特色を生かすための授業改善に資するワーキンググループを設置し、コースでの学習活動の向上を図った。また、教育計画検討委員会を立ち上げ年間行事が効率的に実施できるよう検討した。令和6年度の学習活動や広報活動等が適時に実施でき効果的・効率的な学校経営が実

施できるよう検討した。

(ア) 昨年度実施した1年生向けコース選択のためのスケジュールを検討し、上級関連学校の魅力体験学習を実施した。

(イ) 上級関連学校との連携授業年間計画において時期と内容について検討し改善を図った。

(ウ) 上級関連学校への進学者数を増やすための特別講義を実施し、本学園が持つ学習環境と魅力について認知させた。

(エ) ICT教材の活用等による、グローバル時代に対応できる知識と技能を習得させた。

(オ) 英単語テスト、漢字テスト、朝読書の実施による一層の基礎力向上を図った。併せて、各種検定取得に向けた指導の実施により、資格を取得した生徒が増加した。

(カ) 教科指導力向上を図り生徒の授業満足度を上げた。

(キ) 補習では生徒に具体的な目標を持たせ、積極的に参加させた。(進学・学び直し)

長期休業中の特別講座では、積極的に学習する様子が見られた。

生徒一人ひとりに適した個別学習を進めるにあたり、iPadを効果的に活用した。

## (2) 教員としての資質向上のための研修

教員として身に付けなければならない基本的な力である生徒理解、学級経営、行事運営、保護者対応等について計画的に研修を実施し、個々の指導力の向上を図った。

### ア、魅力ある授業

(ア) 教材研究、研究授業・授業見学後の研究協議会を充実させ、指導力の向上を図った。

(イ) 教科指導並びに教育活動全般にICTを活かした展開の研修を実施した。

(ウ) 授業評価アンケートを実施し、授業の自己分析による指導力の向上を図った。

(エ) 若手職員研修と教科研修会を行い、スキルアップを図った。(若手教諭向け)

### イ、ソーシャルスキルトレーニングを活用した生徒理解能力のスキルアップ

新入生との個別面談を4月上旬に実施し、その後早い時期に保護者等との面談を行い、生徒理解を深め、生徒一人ひとりの特性に合った指導を行った。

## (3) ICT教育活動の充実

ア、新教育課程に適したICT活用による授業の充実を図るため、情報管理部を中心に先進的かつ効果的な活用方法を検討し、研修会でスキルアップを図った。

イ、教科指導並びに教育活動全般にICTを活かすための研究協議を行った。

## (4) わかりやすい授業展開のための実践

ア、生徒個々の学力を定期試験、小テストや模擬試験等の結果から正しく把握した上で、生徒の特性に合わせ効果的に各授業を展開し、生徒の学力向上に繋げた。

イ、TT授業実施により生徒の学力向上を図った。

ウ、土曜補習は、生徒に具体的な目標を持たせることで積極的な学習が実施できた。

## (5) 教育相談・個別面談の充実

クラス担任、授業担任が正しく生徒の状況を理解・判断することが出来る能力の育成と、関係者への連絡相談が適切に行うことが出来た。

ア、担任等から生徒の状況報告を受け、全職員が学習活動のみならず学校生活全体で個々の状況に適した指導が出来るようになった。

イ、スクールカウンセラーとの連携を密にし、効果的な活用を図り悩みや不安を抱える生徒への対応を充実させた。

#### (6) 教員人事に関する重点事項

- ア、本学の建学精神を理解し、教科指導、部活動等諸活動に意欲的に取り組める若手教員を採用した。
- イ、生徒募集に関して、中学校、義務教育学校との連携を図れる職員の採用は出来なかった。
- ウ、部活動（特別活動）に特化した能力・実績のある職員の採用は出来なかった。

#### (7) 進路指導の推進

- ア、3年間を見通したキャリア教育計画の基礎が出来た。
- イ、1年次に明確な目標を持たせるための進路ガイダンスを実施した結果、学習活動へ意欲的に取り組めた。
- ウ、上級関連学校の出前授業や特別講義を各学年に適した時期と内容で実施し、生徒が興味を持って受講するとともに進学啓発に有効であった。
- エ、ICT機能によるキャリアパスポートについて検討し、令和6年度より運用できるようにした。

### 3. 生徒の募集活動に関する計画

生徒募集活動では、簡易リーフレットを作成し早期に管理職等で中学校等訪問を実施した。また学校説明会や部活動体験では在校生が案内や行事・部活動等の説明を行い、中学生や保護者からは高評価を得た。

しかし、中学校等が高等学校見学等を指示する進路指導を始める6月までに、本校のオープンスクールや学校説明会の案内が出来なかったこともあり、夏季休業中の学校説明会等への参加者が増えなかった。

このことを反省し、令和6年度は5月中にはパンフレットや補助説明資料を中学校等に届け、オープンスクールや学校説明会への参加者を増やしたい。

また、受験に関する質問に適時、適確に対応できるように、中学校等訪問職員全員が本校入試の基準や特色を正確に把握し、同一の内容を説明できるようにする。特に本校が目指す学校づくりに資する保育士希望者や部活動での入学者を獲得していきたい。

#### (1) 募集活動

- ア、学校紹介の充実を図った。（ホームページやパンフレット等を活用し、中学校等外部への説明については、全ての職員が統一した資料をもとに本校の特色をわかりやすく示した。）
- イ、各地区開催説明会に参加して、本校のセールスポイント、受験基準、特待推薦基準などについて明確に説明することができた。
- ウ、学校説明会及び授業見学会や部活動体験会等においては各回の説明内容、方法を改善し実施した。
- エ、ホームページの更新頻度、掲載内容、掲載方法等を見直し、本校ならではの教育活動や地域貢献活動を配信した。

#### (2) 特待生制度の活用

学力推薦及び部活動推薦制度を活用し、教育活動の中心となって活躍できる生徒を募集している。令和6年度は部活動推薦でソフトテニス部へ1名の生徒が入学した。

広報活動や部活動の顧問による中学校等訪問や大会視察で、本校での活動の中心となる生徒の勧誘を更に進めたい。

### 4. 施設・設備の整備計画

- (1) 準備室、会計室等の改修工事が完了した。
- (2) 渡り廊下のさび止め及び塗装が完了した。

- (3) 数多い樹木の管理は、剪定の長期計画を立て実施した。
- (4) 電話交換機の更新工事が完了した。

#### 5. その他

- (1) 学園行事を通して学園職員と本校職員との交流を深め、教育活動の連携を図った。
- (2) 生徒が学園各校の行事等に参加する等により、学友会生徒・学生との交流活動を積極的に行った。
- (3) 保育コース活性化のため、近隣保育園・幼稚園等との連携強化を更に進めた。中学校部活動等へ校内施設でのクリニックを実施し生徒との交流等の活動を推進した。
- (4) 小さな親切運動による奉仕活動をより拡大した。(地域貢献活動)
- (5) 漢字検定・英語検定・情報処理関連諸検定などの積極的な受験を奨励した。
- (6) ボランティア・共同活動・地域行事参加などを実施し、地域との連携を深め地域に愛される学校づくりに取り組んだ。

### Ⅲ. 財務の概要（令和5年度決算の状況）

#### 1. 決算の概要

##### （1）資金収支計算書関係

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするもので、令和5年度の収入の部合計は68億9千万円となり、前年度繰越支払資金20億4千8百万円を除いた資金収入の合計は48億4千1百万円、支出の部合計は68億9千万円となり、翌年度繰越支払資金29億5千2百万円を除いた資金支出の合計は39億3千8百万円で、収支差は9億3百万円のプラスとなっている。

資金収支計算書の状況と経年比較

（単位：円）

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	860,479,150	815,874,400	694,540,000	647,668,100	603,299,200
手数料収入	18,056,400	16,891,680	15,502,100	15,301,400	14,120,400
寄付金収入	8,269,500	7,144,500	11,213,280	6,206,500	5,457,000
補助金収入	740,028,544	754,362,956	667,769,063	640,118,581	575,331,742
資産売却収入	6,802,395,511	5,265,095,992	4,733,798,601	2,255,264,499	2,514,834,586
付随事業・収益事業収入	8,484,905	4,708,278	6,421,611	4,518,115	8,588,341
受取利息・配当金収入	550,227,874	644,622,364	751,011,480	914,432,563	959,868,068
雑収入	228,216,627	107,966,757	150,827,072	152,553,454	150,297,952
借入金等収入	3,750,000	2,500,000	1,250,000	1,000,000	1,000,000
前受金収入	217,184,000	180,342,000	176,780,000	169,781,000	158,895,000
その他の収入	186,679,161	273,262,391	117,624,251	336,576,506	166,948,706
資金収入調整勘定	△ 425,237,848	△ 333,243,951	△ 309,339,089	△ 314,966,476	△ 316,704,758
前年度繰越支払資金	544,029,052	820,270,461	1,138,798,526	1,617,166,707	2,048,755,850
収入の部合計	9,742,562,876	8,559,797,828	8,156,196,895	6,445,620,949	6,890,692,087

支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	1,695,949,608	1,626,201,298	1,532,926,673	1,536,213,672	1,514,553,420
教育研究経費支出	275,286,227	256,200,163	248,527,927	251,238,552	231,741,901
管理経費支出	167,558,342	144,673,758	147,049,312	173,497,261	140,143,851
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	3,500,000	1,500,000	4,000,000	2,250,000
施設関係支出	77,601,320	35,361,500	53,443,164	148,796,548	52,884,219
設備関係支出	55,749,503	28,703,883	73,347,467	19,363,991	36,059,914
資産運用支出	6,704,401,307	5,283,653,880	4,438,771,863	2,263,894,943	1,934,124,258
その他の支出	174,600,428	215,392,325	190,104,747	146,525,796	188,159,517
資金支出調整勘定	△ 228,854,320	△ 172,687,505	△ 146,640,965	△ 146,665,664	△ 161,692,736
翌年度繰越支払資金	820,270,461	1,138,798,526	1,617,166,707	2,048,755,850	2,952,467,743
支出の部合計	9,742,562,876	8,559,797,828	8,156,196,895	6,445,620,949	6,890,692,087

(2) 事業活動収支計算書関係

「事業活動収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の活動を「教育活動」「教育活動以外の経常的な活動」「その他の活動」の三つの活動に区分し、それぞれの活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにして、収支の均衡状態等を把握するもので、企業会計における損益計算に相当するものである。令和5年度の教育活動収支差額は8億2千4百万円のマイナス、教育活動外収支差額は9億6千4百万円のプラス、特別収支差額は1億4百万円のプラスで、これらを合わせた基本金組入前当年度収支差額は2億4千5百万円のプラスとなっている。

事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収支	事業活動収入の部				
学生生徒等納付金	860,479,150	815,874,400	694,540,000	647,668,100	603,299,200
手数料	18,056,400	16,891,680	15,502,100	15,301,400	14,120,400
寄付金	8,269,500	7,144,500	11,342,060	6,206,500	5,457,000
経常費等補助金	728,149,544	732,204,956	657,521,063	639,300,581	574,546,742
付随事業収入	8,797,999	4,201,786	6,421,611	6,016,938	7,136,934
雑収入	228,216,627	107,553,707	148,537,827	151,635,184	150,238,422
教育活動収入計	1,851,969,220	1,683,871,029	1,533,864,661	1,466,128,703	1,354,798,698
教育活動収支	事業活動支出の部				
人件費	1,707,862,272	1,581,882,510	1,536,441,125	1,537,265,141	1,525,478,078
教育研究経費	537,056,878	522,267,895	508,122,617	507,292,329	486,714,608
管理経費	196,769,479	173,649,404	176,716,614	200,919,946	166,970,179
徴収不能額等	330,000	1,650,000	300,000	908,000	0
教育活動支出計	2,442,018,629	2,279,449,809	2,221,580,356	2,246,385,416	2,179,162,865
教育活動収支差額	△ 590,049,409	△ 595,578,780	△ 687,715,695	△ 780,256,713	△ 824,364,167
教育活動外収支	事業活動収入の部				
受取利息・配当金	550,227,874	657,038,231	765,317,456	918,955,865	964,838,153
その他の教育活動外収入	0	443,652	44,224	5,163,270	59,530
教育活動外収入計	550,227,874	657,481,883	765,361,680	924,119,135	964,897,683
教育活動外収支	事業活動支出の部				
借入金等利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	37,539	0	346,231	6,364	0
教育活動外支出計	37,539	0	346,231	6,364	0
教育活動外収支差額	550,190,335	657,481,883	765,015,449	924,112,771	964,897,683
経常収支差額	△ 39,859,074	61,903,103	77,299,754	143,856,058	140,533,516

特別 収 支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	3,400,762	46,941,897	86,222,975	67,928,752	103,460,997
	その他の特別収入	12,090,046	27,280,106	12,966,330	2,862,207	1,106,839
	特別収入計	15,490,808	74,222,003	99,189,305	70,790,959	104,567,836
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	227,261	930,758	45,066,747	34,086,999	0
	その他の特別支出	0	0	0	5,407,983	0
	特別支出計	227,261	930,758	45,066,747	39,494,982	0
	特別収支差額	15,263,547	73,291,245	54,122,558	31,295,977	104,567,836
	基本金組入前当年度収支差額	△ 24,595,527	135,194,348	131,422,312	175,152,035	245,101,352
基本金組入額合計	△ 93,949,639	△ 56,358,306	△ 74,766,572	△ 141,013,591	△ 66,066,230	
当年度収支差額	△ 118,545,166	78,836,042	56,655,740	34,138,444	179,035,122	
前年度繰越収支差額	26,566,094,576	26,499,037,606	26,607,112,139	26,663,767,879	26,732,236,234	
基本金取崩額	51,488,196	29,238,491	0	34,329,911	3,638,270	
翌年度繰越収支差額	26,499,037,606	26,607,112,139	26,663,767,879	26,732,236,234	26,914,909,626	
(参考)						
事業活動収入計	2,417,687,902	2,415,574,915	2,398,415,646	2,461,038,797	2,424,264,217	
事業活動支出計	2,442,283,429	2,280,380,567	2,266,993,334	2,285,886,762	2,179,162,865	

### (3) 貸借対照表関係

令和6年3月31日現在の資産の部合計は449億9千2百万円、負債の部合計は5億6千5百万円、基本金の合計は175億1千1百万円で、資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の部合計は444億2千6百万円となっている。

貸借対照表の状況と経年比較

(単位：円)

事業年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	34,161,504,323	33,918,270,079	33,787,842,306	33,293,429,739	33,111,042,534
流動資産	10,262,891,344	10,547,858,713	10,765,676,956	11,420,098,858	11,881,440,084
資産の部合計	44,424,395,667	44,466,128,792	44,553,519,262	44,713,528,597	44,992,482,618
固定負債	200,630,639	154,298,779	168,856,309	155,942,306	158,896,492
流動負債	483,775,214	436,645,851	378,056,479	375,827,782	406,726,265
負債の部合計	684,405,853	590,944,630	546,912,788	531,770,088	565,622,757
基本金	17,240,952,208	17,268,072,023	17,342,838,595	17,449,522,275	17,511,950,235
繰越収支差額	26,499,037,606	26,607,112,139	26,663,767,879	26,732,236,234	26,914,909,626
純資産の部合計	43,739,989,814	43,875,184,162	44,006,606,474	44,181,758,509	44,426,859,861
負債及び純資産の部合計	44,424,395,667	44,466,128,792	44,553,519,262	44,713,528,597	44,992,482,618

## 2. 財務比率の経年比較

貸借対照表に関する比率

(単位：%)

分類	比率	計算式	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
自己資本は充実しているか	純資産構成比率	純資産/(総負債+純資産)	98.5	98.7	98.8	98.8	98.7
負債の割合どうか	総負債比率	総負債/総資産	1.5	1.3	1.2	1.2	1.3
運用資産の保有状況はどうか	積立率	運用資産/要積立額	383.9	379.4	371.9	366.7	361.6

事業活動収支計算書関係比率

(単位：%)

分類	比率	計算式	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	△ 1.0	5.6	5.5	7.1	10.1
収入と支出のバランスはとれているか	経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	△ 1.7	2.6	3.4	6.0	6.1

(注) 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

## 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学校法人の当年度の経営状況を表す事業活動収支差額比率は、上記2のとおり、令和5年度は10.1%（前年度末 7.1%）となり、4年続けて決算段階での黒字化を達成することができた。しかし、近年の収支状況は依然として厳しい状況が続いていることから、事業活動収支差額比率等の推移を注視しつつ、予算の編成に当たり取捨選択を適切に行って、引き続き財政の健全性が確保できるよう努める。